

鹿児島県大崎町における衛生自治会の実態と役割の検証

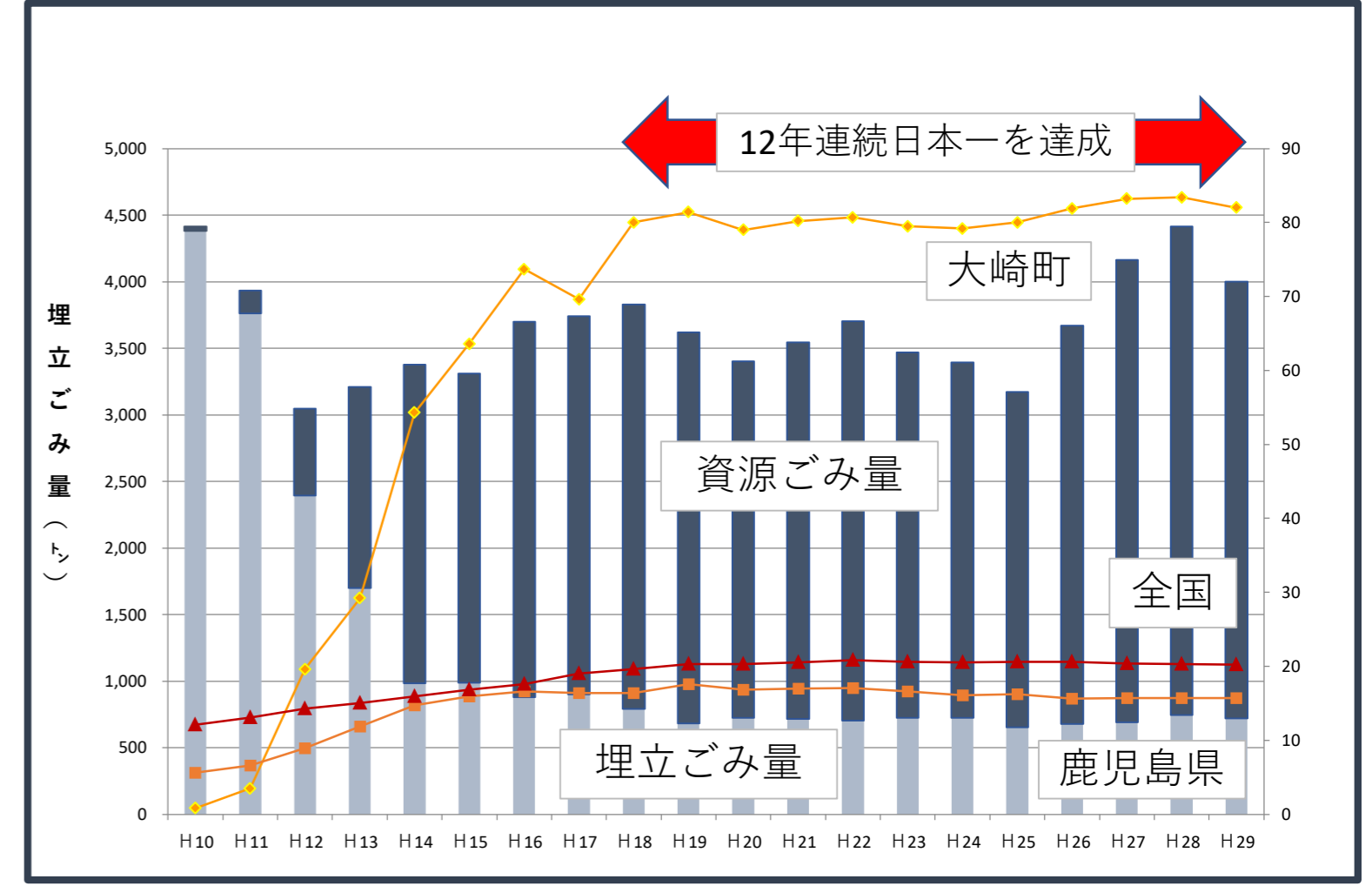
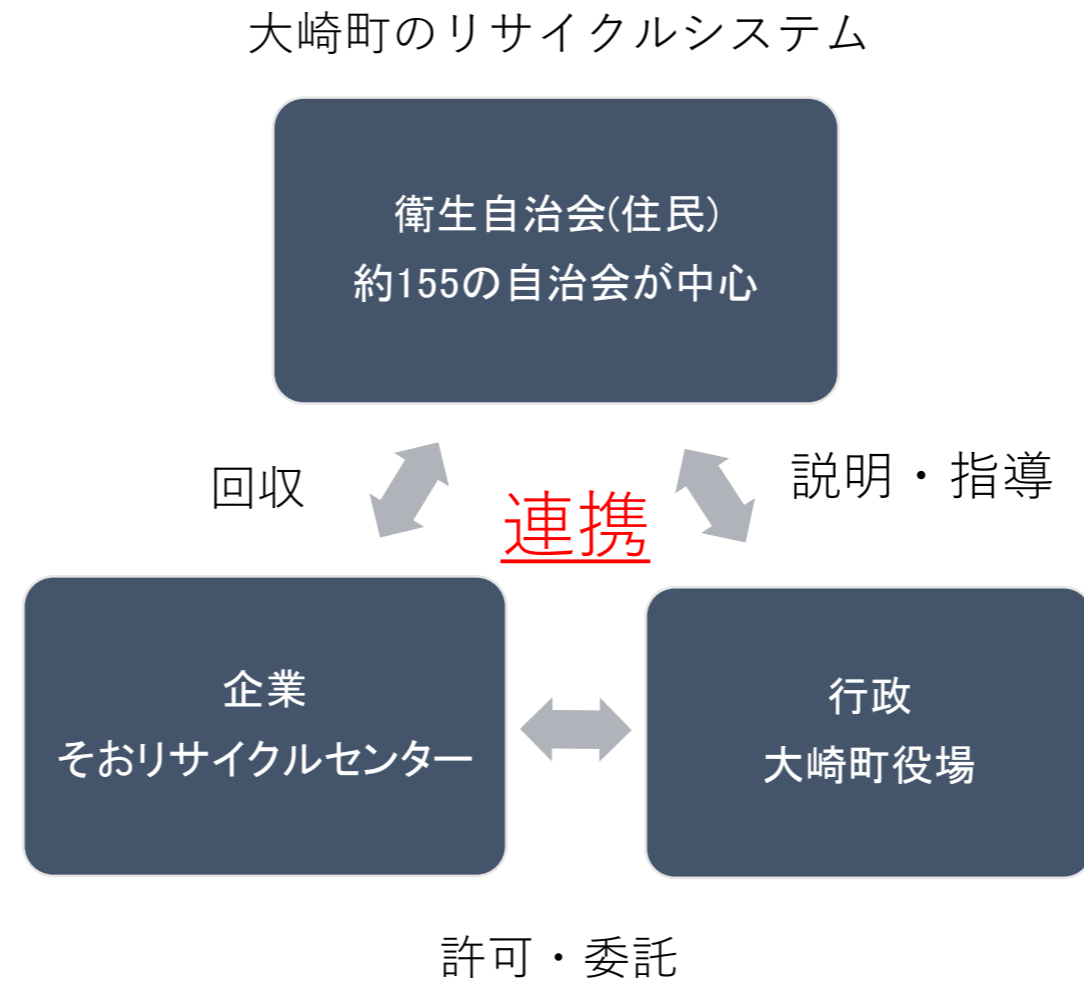
政策・メディア研究科修士1年（大崎町地域おこし研究員） 宮下 功大

研究背景

3者協働により、27品目の分別
12年連続リサイクル率日本一(82.0%)

↓
第2回ジャパンSDGsアワード
内閣官房長官賞受賞
SDGs未来都市選定
外部評価の高まり

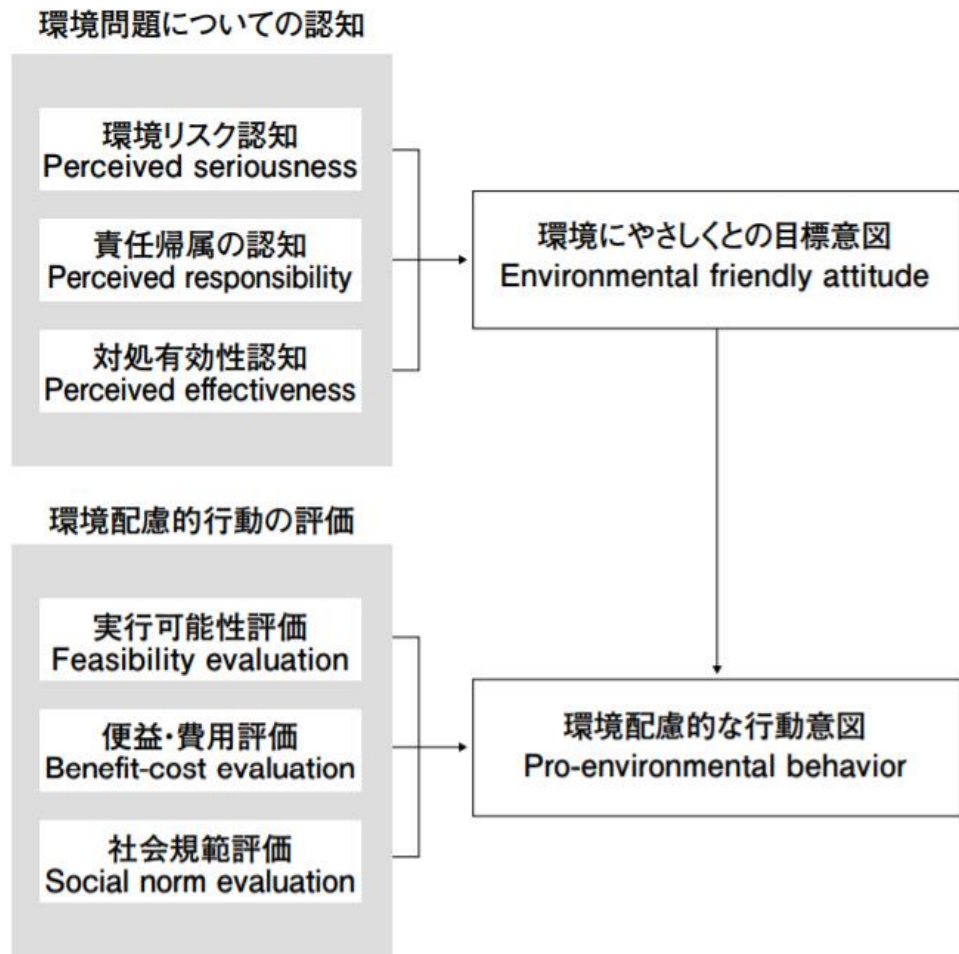
↓
その実態や役割の検証はなされていない
今後の事業の持続性を高めるには…
課題の見える化や課題解決手法の開発が必要



大崎町におけるリサイクル率の推移

先行研究

(1)環境配慮行動の規定因



(2)地域リサイクル・システムにおける自治会の役割

- ①政策決定過程への参加
- ②排出ルールを徹底の住民の監視と注意
- ③住民レベルでのリサイクル・システムの維持管理
- ④新しい問題解決方法の創造

(3)保健指導員組織の地域における多様な役割

- ①健康学習
- ②「家庭」「地域」への働きかけ
- ③行政の補助
- ④地域と行政をつなぐ
- ⑤地域を知る
- ⑥仲間作りの受け皿
- ⑦新たな活動の形成
- ⑧経験を地域に蓄積させる

RQと仮説

(1)RQ

TypeA

なぜ大崎町では高いリサイクル率を維持、向上できているのか？

TypeB

なぜ各衛生自治会によって分別や排出の精度に差があるのか？

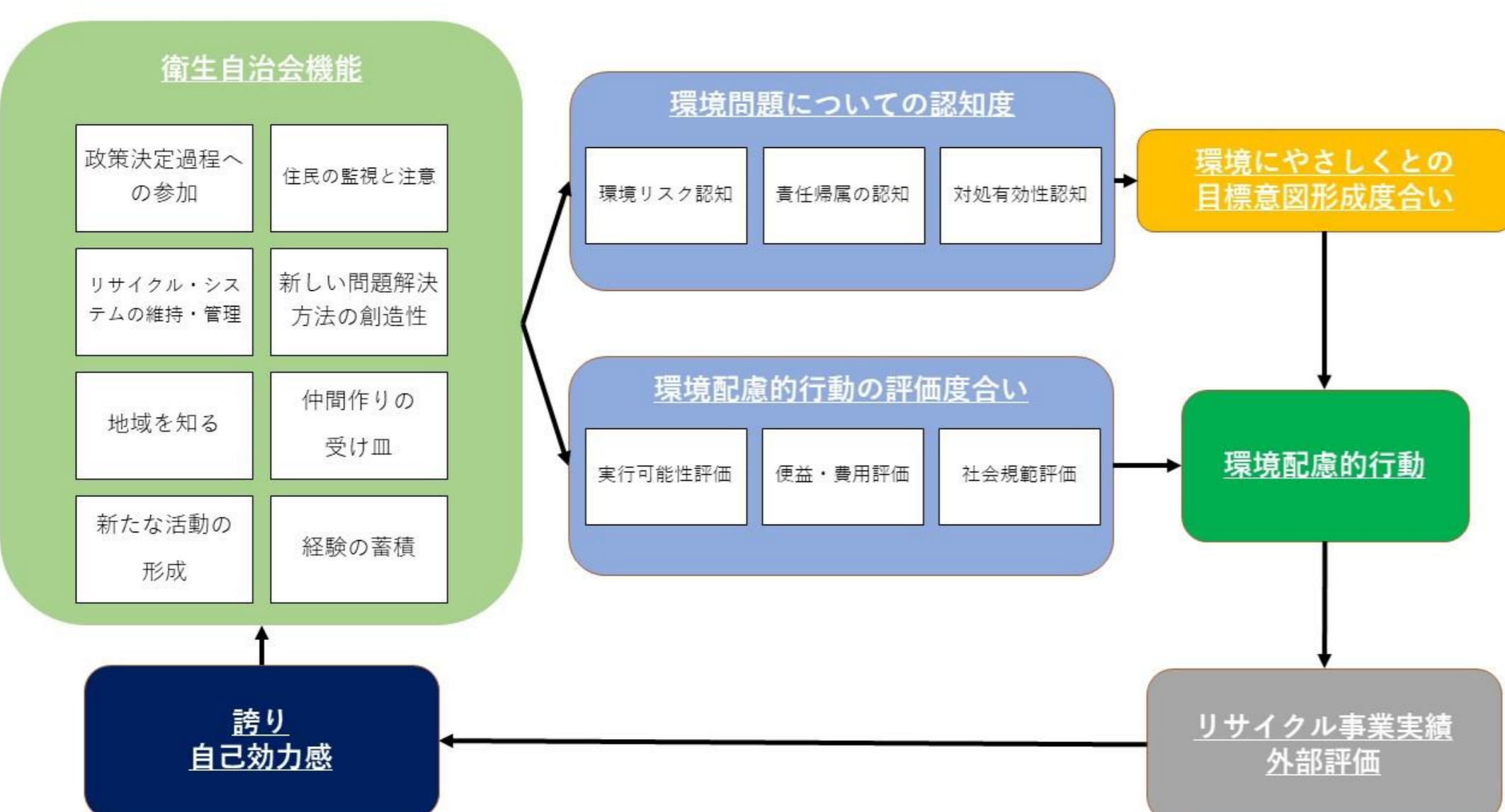
各組織のルール・ロール・ツールにどのような独自性があるのか？

(2)仮説

衛生自治会はリサイクル事業を促進する役割だけでなく、コミュニティ機能を高めるなど多様な役割を担っている。

各衛生自治会において、事業を継続する中で独自の工夫を行いながらリサイクル事業を維持・継続している。

概念モデル



研究手法

①資料分析

衛生自治会新聞や総会資料、統計データを活用して、衛生自治会活動について、経年的な分析を行う。

②155の衛生自治会組織の分析

各組織の規模(世帯数・人数)、年齢分布、男女比、マンション居住世帯割合、外国人居住者割合等を調査し、横断的な分析を行う。

③半構造化インタビューの実施

①②の調査結果をもとに、特徴的な組織を抽出し、自治会長や町内会未加入者などに個別またはグループインタビュー調査を行ない、その活動を詳細に調査する。